

平成 26 年度第1回長野市文化芸術振興審議会会議録

- 1 日 時 平成 26 年4月 28 日(月) 午後2時から午後4時まで
- 2 場 所 長野市役所第一庁舎 第1委員会室
- 3 出席者(委員) 中山裕一郎委員、伊藤有希委員、金澤茂委員、多田井幸視委員、
海沼和幸委員、清水隆史委員、村松正夫委員、徳武志げり委員、
柳沢征人委員
(職員) 堀内教育長、青木文化財課長、竹内文化芸術推進課長、
柳澤課長補佐、中野係長、手塚主事、大川主事

4 議 題

(1)長野市芸術館について

資料1 「長野市芸術館について」

資料2 「新第一庁舎及び新市民会館 実施設計概要」

資料3 「長野市芸術館の設置及び管理に関する条例」

(2)平成 25 年度の事業状況について

(3)平成 26 年度の事業計画について

主な内容(質問・意見及び回答)

(1)長野市芸術館について

委員	・ 小ホールBは展示が可能という話だったが、床をフラットにして、パネルを立てて使うのか？
事務局	・ ホールに用意する、移動式パネルを持ち込む予定である。
委員	・ 利用料金の関係で、減免措置は考えているか？
事務局	・ 減免をどうするかは、市民ワークショップの段階からいろいろな意見があった。管理運営の基本計画、実施計画策定の過程でも議論をしてきたが、基本的には減免はしない。運営側の大きな負担になるため行わないが、それ以外の部分でサポートをしたい。
委員	・ 和室、畳の部屋はあるのか？舞踊等のために、検討してほしい。
事務局	・ 和室はない。備品として「敷き畳」を用意することは可能だと思うので、ご意見を反映したい。

委員	・ ギャラリーの図面(資料2 P. 13)を見ると、壁面のほか3本のパネルが立つように見えるが。
事務局	・ 据付の移動式パネルを3枚用意できるようになっている。
委員	・ ギャラリーの面積は出ていたが、壁面の長さは、パネルの裏表を含めどのくらいか出してほしい。
委員	・ 何かを陳列することは可能か？
事務局	・ 備え付けで用意はしていないが、備品等で調達できないか検討中である。
委員	・ 若い人たちを応援するために、利用料金の学割のようなものを設け、少しでも安くすることはできないか？
事務局	・ 芸術館の管理運営をする長野市文化芸術振興財団が割引をすることも制度的には可能である。どの程度の経費負担が発生するのか、その運営状況にもよるが、他館でも利用のないとき直前に空いていれば利用の割引をしているところもあるので、運営の中で考えていくことになる。できるかどうかは、ここでは申し上げられない。
委員	・ 皆が安く気楽に聴くことができる音楽を提供するのは、市にしかできない。この曜日のこの時間に行けば音楽が聴ける、子どものころからクラシック音楽を家族で聴きにいこう、というように市民の音楽感性を高めてほしい。
委員	・ 町村はほとんど減免があり、無料でホールを使うことができる。
委員	・ 財政基盤や運営のことを考えると、ただ安くすればいいのか、ということもある。1年、2年だけで終わるものではない。長期的に考えて減免措置について考えていかないと、後々、財政負担になって、やりたいことを提供できなくなってしまうては本末転倒だ。長期間にわたって対応を考えた方が良く、無料で提供するもの、料金を取るものをはっきり区別したほうがいい。音楽は空気のようなものでただだと思っている方もいるが、ただの空気を芸術に変え

	るには、非常なエネルギーを使っている。 折角いいホールができるので、裏を支えていく皆さんの考え方でいいのではないかな。
教育長	・ 芸術館の4つの役割の中に「育む」という役割を設けている。それを受けて、指定管理者となる長野市文化芸術振興財団と協議をしていくが、自主事業で「育む」という部分を展開しなければならない。「育む」という部分をいかに発揮するかということに、意見を反映できればいいと思う。
委員	・ 10 ページにある、オープニングステージの中の市民参加型事業は、どんな計画をしているのか？
事務局	・ 財団がその指定管理期間が4年半をどう館を運営していくか、オープニングも含め、現在、構想を練っているところである。実行委員会を立ち上げ、いろいろな団体と一緒にやっていこうとしているので、皆さんに声をかけながら参加いただくことになるだろう。その周知方法は事業内容によって異なるかと思う。具体的になったら、皆さんに知っていただき、参加していただくよう、市も協力してやってまいりたい。
委員	・ 従来、会館の運営は全国的に貸しホール主体だった。ホクト文化ホールも貸しホールとして稼働率がいいが、30 年経ち、何を提供してきたか、今後どう展開するかを、指定管理者として厳しく問われるようになった。ホールの置かれている立場は非常に厳しい。新しい会館の貸館は重要だが、ホールを活かして、継続的に館の目的である「育む」等の企画を確実に創っていく必要がある。小学生、中学生、高校生等を育てるために、長期的に、着実に考えていかないといけない。将来につながる、内容のしっかりしたものを作らないといけないと思う。
委員	・ 松本市は串田さんの企画がすばらしい。東京に行かなくてもいいような企画ができる、人間的魅力のある方を連れてきてほしい。
委員	・ 市民会館建て替えの話の際には、旧市民会館と篠ノ井市民会館、松代文化ホールを合わせた運営費が、年間7千万円だったかと思う。対して、まつもと市民芸術館は予算規模がかなり大きかった。ど

	ちらがいいかは考え方だが、影響は絶大だ。ハード的な話以上に自主事業は大事である。予算についての計画を示してほしい。
事務局	▪ 去年の審議会で運営管理実施計画をお示ししたが、芸術館の運営経費を全体で5億4千3百万円を見込んでいる。そのうち、指定管理料は約3億3千6百万円という計画だった。その計画を元に、指定管理者になる予定の財団と、管理に関する経費と自主事業に関する経費を含めて、調整をしているところである。
委員	▪ この審議会ではハードの話よりも、ソフトの話をしていただいた方が分かりやすいのではないかと。
事務局	▪ 去年、管理運営実施計画の説明をしたので、今年はハードの話をさせていただいた。
委員長	▪ 目先のことも大事だが、10年後、20 年後を考えてほしい。魅力的な芸術監督を迎えたが、話し合いを持って、長期的な計画をつくってほしい。
委員	▪ すばらしいホールができて、長野市をアピールするきっかけにもなるので、ホールの中の飲食は難しいだろうが、外やニワを利用して、長野の物産を紹介したり、イベントを実施したらどうか。
事務局	▪ オープニングの段階では、この第一庁舎が残っていて、前庭を整備するのは、引越し、取り壊し後となり、1年後ということになる。開館時に広場を使つての事業は難しいが、ご意見のような企画を考えていきたい。
委員	▪ 将来を担う子どもたちが夢を持って取組めることはすばらしいことだと思う。芸術館が核となり、松代文化ホールやホクト文化ホール、中条音楽堂など市域における文化芸術の施設とタイアップして、空間的な広がりをいかに持てるか、ということを考えることが必要ではないかと。
委員長	▪ 県全体がレベルアップできるように、長野市が中心になって情報交換とかができないかと。

事務局	運営管理実施計画の中に、「つなぐ」という役割のひとつとして、他館との連携が大事であることを記載してある。まだ、具体化していないが、他館とは協議、協力していきたい。後ほど説明するが、昨年度はホクト文化ホールの30周年記念として、小学校5年生をコンサートに招待していただいた。このようなつながりを大切にして、広げていければと考えている。
(2) 平成 25 年度の事業状況について	
(3) 平成 26 年度の事業計画について	
委員	野外彫刻長野ミュージアムについての問題は、審査の不透明性である。なぜ、その作品が選ばれたのか、なぜ、あの場所にあるのかが分からない。また、1時間の審議のなかで受賞作品を決定するのは、事業規模に比して、違和感がある。選考委員に長野市出身者がいない。例えば、公募や審査を公開するとかして、市民が関心を抱けるようにしてほしい。昭和48年からやっている方法では古い。選考方法等を変えられないなら、せめて、ホームページに選考理由を記載してほしい。
委員	野外彫刻については、一般の市民には全く周知されていない。松代は昔の街並みに整備してもらったが、真田邸の門に似合わない彫刻がある。誰が決めて、設置したのか、腑に落ちない。
事務局	当時の市長がヨーロッパに行った際に、街角に彫刻があることに感銘を受け、美術館にいかなくても、日常生活の中で、芸術に触れることができるように野外彫刻賞が始まった。始めは長野市だけの事業ではなく、市内の有力企業に参加いただき運営委員会を組織し、選考に当たっては、日本を代表する美術評論家等をお願いした。前年等に発表された作品の中から選定していたが、平成9年からは長野市が単独で主催するようになり、場所にふさわしい作品を制作していただける作家を選考するようになった。 近年は、長野駅や権堂駅から長野市美術館まで彫刻を見ながら歩いていただくということで、長野大通りに集積を進めている。また、国から補助金を交付されることもある。 皆さんに野外彫刻に親しんでいただこうと、野外彫刻めぐり、写真コンテスト、写生コンテスト等を実施してきたが、ご意見のとおり市民には知られていないという声があるということも承知している。

全国的にはこのように長期にわたって彫刻を設置している都市は少ない。公募する方法もあるが、多額の費用がかかる。本市では著名な選考委員が選定していることから、安価ですばらしい作品が手に入るという利点もある。

今後は長野市のホームページへ選考理由を掲載したい。

委員

- ・ 皆、感性が違う。青空の下に彫刻があって、子どもたちが彫刻に触ることができる、見て感動するだけでいいと思う。作品の出来がどうか、自分とは合わないという問題ではなく、そこに彫刻があるということだけでいい。

委員

- ・ 長野市はすばらしいコレクションを持っている。日本の超一流の作家の彫刻を集めているということはすばらしいと思うが、おいてある場所が問題である。霊園への道沿いにある彫刻は、日常的には見ることができない。例えば中央通りに点々と置いてあれば、財産となる。お金をかけた割に効果が薄いことが残念だ。

委員長

- ・ すばらしいことは否定しないが、どのように市民に近づけていくかが課題である。

委員

- ・ 以前の選定方法は「賞」といえるが、今の方法は「賞」に値しないので、「事業」に変えていくべきだ。
選考委員に地元の人、歴史・街並み・建築関係者などを入れ、1時間でなく回数を重ねて選定すべきだ。公募をして、書類でプレゼンをさせて、市民が選べるような形式でやればよい。変えることが無理だとすれば、事業そのものの存続について検討した方がいい。

教育長

- ・ 選考委員会では、熱心に真剣に選んでいただいている。審議時間は1時間ではあるが、ほかに調査の時間、現場に行っていたく時間もある。
点在していることが気になっている。移設は財政的に難しいので、このごろは、集中型に切り替えるようにしている。新しい芸術館へのプロムナードを彫刻と結びつれられないかと計画しており、課題を踏まえ検討するように指示をしている。

委員	・ 景観賞が、どのくらいのバックボーンとしての歴史を持っているのか疑問に思うことがある。例えば、企業が造った庭には、新しい植木が枯れないように腹巻がされている。一方、手入れはしていないが、街路樹がうっそうと茂る中で年輪を重ねながら、長野市の景観を形作っている。選考の基準はあるだろうが、景観賞の見方がどのようになっているのだろうか。長野大通りには樺の木があるが、その枝にはペットボトルが下がっている、そんな景観はどうなのか。地域の皆さんが、緑を育てる、景観を育てるということを醸し出すことを大事にしてもらえればと思う。 ・ 芸術館にも中央に植栽をという話があるが、剪定をして見栄えがいいだけでなく、市民が大事にしてきた緑の景観をつなげていけるようなものができていければよい。街中でも緑を大切にする文化が育ってほしいと思う。
事務局	・ 自薦他薦を問わず受け付け、長野市景観審議会で選考していくものである。その年にできたものだけでなく、過去の建築物も対象になる。
委員	・ 生涯学習センターの稼働率を知りたい。
事務局	・ 後日、お知らせする。
委員	・ 資料4・7ページのリーダーバンクの63人は既に活動しているか？
事務局	・ 登録をしていただき、その名簿を公開して、適宜、問い合わせいただき、先生として教えていただいたり、公演していただいたりする方式である。登録をすれば、活動に結びつくのかといえば、記載のとおり、実際指導されたのは半数弱という状況である。登録者数の63人は文化芸術関係のみで、ほかにもスポーツ等分野は多岐にわたっている。ホームページ等で公開しているので、利用いただきたい。

5 閉 会